

『女性に関する直接的指導のタイプ』
上三川小学校 第5学年家庭科学習指導案

1 題材名 できるようになったかな 家庭の仕事

2 題材の目標

- (1) 自分の分担する家庭の仕事に取り組み、家庭の仕事に協力しようとしている。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- (2) 自分が分担した仕事の計画について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。
(生活を創意工夫する能力)
- (3) 家庭には、衣食住に関する仕事があり、自分や家族の生活を支えていることを理解している。
(家庭生活についての知識・理解)

3 題材観

家族構成や生活様式が異なっても、健康的で快適な生活を営むために必要な仕事として、家事労働がある。児童は、これまで家庭生活を営むためにどのような「仕事」があり、誰がどのような工夫をして行っているかということに、目をとめることは少なかったと考えられる。そこで、家庭は様々な「仕事」によって支えられていることに気付かせ、自分の家庭を振り返り、自分でできる「仕事」を考え計画を立てて実行する。「手伝い」としてではなく、児童にとって自分が家族の一員として役割を果たしていると実感できるような「仕事」を分担し、責任をもって継続的に取り組めるようにしたい。

4 指導計画(総時数 2時間)

- (1) わたしにできる家庭の仕事を増やそう・・・1(本時1／1)
- (2) 家族に協力して仕事をしよう・・・1

5 人権教育との関連

本題材は、家庭の仕事を見直し自分ができる家庭の仕事を考え、工夫しながら継続的に実行するという学習である。家庭には様々な仕事があるが、家事分担は依然として女性に負担が偏っている場合が多い。年々共働き世帯が増加し家族構成や生活様式も多様化してきているため、男性も家事を分担している傾向も徐々に増えてきているが、男女共同参画社会の一員としてそれぞれの良さを生かしながら家事労働を行う必要がある。家庭の仕事は自分や家族の生活を支えていることに気づかせ、家族の一員として積極的に仕事を分担していこうとする気持ちを育てたい。

この内容は、本校人権教育の基本目標「互いによさを認め合い、ともに助け合って生きる子どもの育成」につながるものであり、高学年の重点目標「相手の気持ちや立場を大切にし、合理的な考えを持って思いやりのある行動がとれる子、育てたい能力・態度「身の回りの偏見や差別の要因、背景について正しく理解することができる(知性)」につながるものとする。

6 本時の指導

- (1) 題目 「家庭の仕事にチャレンジ！」

- (2) ねらい

- ・家庭の仕事について見直し、自分ができる仕事の実践計画を立てることができる。
(生活を創意工夫する能力)

- (3) 人権教育の視点

本時では、家庭の仕事はいつ誰がやっているのか調べ振り返ることで、多くの家事労働を女性が担っている場合が多いことや家族で仕事を分担する大切さに気づくことができるようにした。このことは、本校の人権教育目標高学年の知性①「自分の周りには家柄や職業、性別などによる偏見や差別のあることに気づく。」と知性③「互いによいところを認め合い、支え合うことの大切さが分かる。」に関わる。

(4) 展開

※学校課題との関連 ◎人権教育上の配慮 ◇評価

具体目標	学習活動	教師の指導・支援	準備など
・ 本時の学習課題を把握することができる。 ・ 家庭の仕事を家族で協力して行う必要性に気づくことができる。 ・ 家庭の仕事の実践計画を立てることができる。 ・ 計画を見直すことができる。	1 本時のめあてを知る。 自分ができる家庭の仕事の実せん計画を立てよう。 2 家事分担の状況について、調べたことや資料を見ながら話し合う。 資料 「家事分担の状況」 「夫婦の生活時間」 「共働き世帯数の推移」 3 自分のできる家庭の仕事を考え、計画を立てる。 4 計画した仕事の内容について、グループで話し合う。	・ 家庭科の学習を振り返り、できるようになったことを家庭の仕事に生かしていくことを伝える。 ※資料についてグループで話し合い、考えたことを発表することで、家庭の仕事の問題点を学級全体で共有できるようにする。 ◎家庭の仕事をしているのがほとんど女性であることに気づかせ、家族で協力することの必要性について考えられるようにする。 ・ 各家庭によって仕事の内容は様々であることに触れる。 ・ 自分の家庭の仕事を振り返り、その中から自分一人でも継続して取り組みそうな仕事を選ぶようにさせる。 ・ 仕事の方法や手順について、自分なりの工夫を考えられるようにする。 ※計画した仕事内容について、グループ内で検討したりアドバイスをし合ったりすることで、さらに計画を充実させられるようにする。 ◎お互いの考えの良いところを認められようようにする。	・ ワークシート 1 ・ 教科書 ・ 拡大掲示物 ・ ワークシート 2
◇おおむね満足できる状況 ・ 家庭の仕事の中から、自分ができる仕事の実践計画を立てたり、自分なりに工夫したりしている。(生活を創意工夫する能力)【観察・ワークシート】 おおむね満足できる状況に達していないと判断される児童への手立て ・ 自分ができそうな仕事はないか教師と一緒に考えたり、友達の計画を参考にしたりして、計画を立てられるようにする。			
・ 実践への意欲をもつことができる。	5 本時の学習を振り返り、まとめをする。	・ 本時で計画した内容を実践することを伝える。 ・ 家族の協力の大切さを確認し、意欲的に実践できるようにする。	

考察

- ・児童から「家庭の仕事はお母さんがするのが常識。」という意見が出るなど、多くの児童に家事＝女性という意識があったため、「どうして常識なのか。」「それは正しい考えなのか。」「家族の分担は必要なのか。」などと問いかけ、学級全体に広げて家族で協力することの必要性について考えさせると良かった。
- ・資料は多くの家事を女性が担っていることに気付かせるのに有効だった。しかし、資料が多く読み取りが難しかったので、3つの資料を一度に出すのではなく、教師が考えさせたい資料を決めておくと視点を当てやすかった。また、資料の読み取りは学級全体で行うとわかりやすかった。
- ・資料の「共働きが増えている」という事実から、外で働いている女性が家事の多くを行っている妥当性についての話題を提示して話し合わせ、仕事を分担する必要性に気付かせることが良かった。
- ・家庭の仕事は生活に必要なことであり、家族の一人一人が取り組む必要があることから、現在の生活様式とあわせて男女関係なく協力して取り組むことの大切さを伝えると良い。
- ・母子家庭や父子家庭が少ない中で、夫婦での仕事の分担などは少し扱いにくいところがある。